

第2次安曇野市環境基本計画

# 令和6年度 年次報告書

---

2025年3月

安曇野市

## 目 次

1	年次報告書について	1
1-1	目的	1
1-2	記載事項	1
1-3	留意事項	1
2	第2次安曇野市環境基本計画について	2
2-1	第2次環境基本計画の中間見直し	2
2-2	環境基本計画の基本事項	2
2-3	安曇野市がめざす環境のすがた	2
2-4	望ましい環境をつくるための取り組み	2
2-5	第2次地球温暖化対策実行計画	2
2-6	計画の推進体制と進行管理	2
3	安曇野市環境行動計画（2023—2027）について	2
4	安曇野市環境基本計画実施計画書について	3
5	2024（令和6）年度の取り組み	3
5-1	安曇野市環境審議会	3
5-2	環境基本計画の推進	3
5-3	環境行動計画の推進	4
5-4	環境指標達成状況	3 5
5-5	参加と協働	3 6
6	その他	3 7
6-1	安曇野市環境基本計画庁内調整会議	3 7
6-2	安曇野市生物多様性アドバイザー	3 7
6-3	安曇野環境市民ネットワーク	3 7
7	参考資料	4 1

## 1 年次報告書について

### 1-1 目的

[安曇野市環境基本条例](#)（以下「条例」という）第10条に基づき、市の環境の現状や環境の保全と創造に関して行った施策について公表するものです。市の環境の現状や課題、この一年の取り組みについて市民・事業者の皆様と情報共有するとともに、その評価や反省点を今後の施策の展開につなげていくことを目的としています。

### 1-2 記載事項

[第2次安曇野市環境基本計画](#)（以下「基本計画」という）、環境行動計画2023-2027（以下「行動計画」という）に基づき、本市が2024（令和6）年4月1日から2025（令和7）年3月31日までの間に取り組んだ環境に関する施策の実施状況を記載しています。

なお、省エネ・省コストを考慮し、以降の記載は前述の条例・計画の参照を前提とし、基本計画で定めた環境指標の状況や、行動計画において重点的に取り組むものとして選定された全29のプログラムの経過と結果を簡潔に記載するものとします。

本書の記述についての不明な点や取り組みの詳細は、基本計画のほか、[安曇野市里山再生計画等の環境に関連する個別計画](#)及びそれらに基づく報告書を参照していただくか、各取り組みの担当課までお問い合わせください。

### 1-3 留意事項

本書に記載の計画等は、市ホームページ上に公開されています。インターネット上で本書を閲覧されている場合は、初出の箇所（[青字](#)で記載）をクリックすると掲載ページへのリンクが開きますので、必要に応じてご活用ください。

## 2 第2次安曇野市環境基本計画について

2008（平成20）年に制定した[安曇野市環境宣言](#)を基本理念として、より良い安曇野の環境を実現するための行動指針となるもので、環境の保全および創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、望ましい環境のあり方や環境施策の基本的な方向性などを示しています。また、本市の最上位計画である[第2次安曇野市総合計画](#)を環境面から推進する役割を担っています。

### 2-1 第2次環境基本計画の中間見直し

第2次基本計画の改定の背景、方針、中間評価について記述しています。詳細は、基本計画第1章（P1-12）を参照してください。

### 2-2 環境基本計画の基本事項

基本計画策定の背景、第2次基本計画の基本的事項について記述しています。詳細は、基本計画第2章（P13-26）を参照してください。

### 2-3 安曇野市がめざす環境のすがた

安曇野市の環境づくりに向けて、望ましい環境像・基本目標、環境指標、計画の体系について記述しています。詳細は、基本計画第3章（P27-34）を参照してください。

### 2-4 望ましい環境をつくるための取り組み

取り組みの基本的な考え方、取り組みの推進（個別目標）、重点取り組みの推進について記述しています。詳細は、基本計画第4章（P35-72）を参照してください。

### 2-5 第2次地球温暖化対策実行計画

地球温暖化に関する現状、計画概要、市内の温室ガス排出量の現状及び将来予測、地球温暖化対策のための取り組みについて記述しています。詳細は、基本計画第5章（P73-108）を参照してください。

### 2-6 計画の推進体制と進行管理

推進体制、進行管理、その他の計画推進方法について記述しています。詳細は、基本計画第6章（P109-117）を参照してください。

## 3 安曇野市環境行動計画（2023-2027）について

基本計画で定めた54の重点取り組みのうち、目標を数値で把握できるものを中心に29のプログラムを抽出し、その目標達成のための具体的な進行管理の方法を示した行政計画の一つです。なお、2023年度から2027年度を計画期間とする行動計画を2023年3月に策定しました。今後、社会情勢の変化等により、随時見直しを行います。

行動計画で選定した取り組みの実施状況は、本書6ページ以降に掲載しています。

#### 4 安曇野市環境基本計画実施計画書について

行動計画で選定した取り組みをプログラム化し、一年間に実施する内容を具体的に示した計画書です。進行管理シートにより目標や結果、課題を管理し、見出された改善点を翌年の計画に反映します。

#### 5 2024（令和6）年度の取り組み

本年度の取り組みを条例に基づくもの、行動計画に基づくもの、基本計画の基本目標の一つである「参加と協働」に基づくものに区分し、順次記述します。

##### 5-1 安曇野市環境審議会

[環境審議会](#)を以下のとおり開催し、環境の保全及び創造に関する事項について審議しました。

期 日	回 数	内 容
2024(令和6)年 5月16日	第1回	(1)令和5年度 環境課・ゼロカーボン推進課の 業務概要について (2)環境基本計画 環境行動計画及び令和6年度 実施計画書について (3)令和6年度安曇野市一般廃棄物処理実施計画について
7月19日	第2回	(1)環境基本計画 令和5年度 年次報告書について (2)第3次安曇野市地球温暖化防止実施計画の改定について (3)安曇野RE株式会社と脱炭素に向けた取り組みについて (4)安曇野市公害防止条例及び施行規則の改定について
11月15日	第3回	(1)プラスチック使用製品廃棄物の再資源化について (2)安曇野市職員ゼロカーボン行動計画の策定について
1月29日	第4回 中止	環境基本計画 令和6年度中間報告 送付
2025(令和7)年 3月18日	第5回	(1)令和6年度環境課・ゼロカーボン推進課の事業報告について (2)環境基本計画 令和5年度 年次報告 について

##### 5-2 環境基本計画の推進

基本計画における基本目標4、個別目標15、主要施策46項目に基づく各種施策を展開しました。

### 5-2-1 重点取り組み

基本計画に定めた施策のうち、個別目標1から15にかかる54の重点取り組みについて、行動計画に選定したものを含め、各担当において取り組みを進めました。

### 5-3 環境行動計画の推進

基本計画に定めた54の重点取り組みのうち、環境指標に絡み、数値目標を定めて特に厳密に進行管理を行うべきものとして抽出した29のプログラムについての取り組み状況を次に示します。

#### ○環境行動計画における重点取り組み一覧

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
環境基本計画事業	1	シンボル種(オオルリシジミなど地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種などの保護活動を推進する。	環境課 環境政策担当
	2	外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。	環境課 環境保全係
	3	悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。	環境課 環境保全係
	4	広報などで分別の徹底を啓発する。	環境課 資源循環推進担当
	5	事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。	環境課 資源循環推進担当
	6	ごみの分別方法を分かりやすく説明する。	環境課 資源循環推進担当
	7	安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係
	8	地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係
	9	公共施設を建設する際に省エネ機器・設備を率先導入する。	財産管理課 施設経営担当
	10	緑のカーテンの導入を推進する。	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係
	11	住宅等建物への太陽光発電(PPA 事業を含む)の取り組みを進める。	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係
	12	自動車の使用を極力削減し、自転車・徒歩でのライフスタイルへの転換に向けた普及啓発を推進する。	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係
	13	小中学校における環境教育を推進する。	環境課 環境政策担当

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
	14	地域活動(隣組・区・地区・地域公民館・自治会組織など)の場などで環境学習会を開催し、出張啓発を行う。	環境課 環境政策担当
各分野における基本計画	15	薪の地産地消率向上を推進する。	耕地林務課 林務担当
	16	里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくりを行う。	耕地林務課 林務担当
	17	里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	耕地林務課 林務担当
	18	松枯れ対策事業を継続して行う。	耕地林務課 林務担当
	19	農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。	農政課 農村振興担当
	20	荒廃農地対策を行う。	農政課 農村振興担当/農業委員会
	21	県知事認定の「エコファーマー」制度の推進に協力する。	農政課 生産振興担当
	22	鳥獣被害防止計画を策定(見直し)し、実施する。	耕地林務課 林務担当
	23	多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。	耕地林務課 耕地担当
	24	緑の恵みを感じることができる講座を開催する。	都市計画課 公園緑地担当
	25	景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。	建築住宅課 建築景観係
	26	地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行を実施する。	環境課 環境政策担当
	27	雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。	環境課 環境政策担当
	28	管理不十分な空家などへの指導をする。	移住定住推進課 空家活用係
	29	デマンド交通「あづみん」、「定時定路線」の運行を行う。	政策経営課 企画担当

【環境基本計画事業】		環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		シンボル種(オオルリジミなど地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種・天然記念物などの保護活動を推進する。	
担当：環境課 環境政策担当					
1. Plan(計画)					
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)			[結果/目標](%)	
①	自然観察会の開催 年3回 延べ参加者80人以上	・自然観察会を開催	夏2回 冬	3	3回の自然観察会を実施。市内の小中学生等を含む親子を対象に毎回30名程度が参加。身近な動植物の状況や環境の特徴を専門の講師を招き分かりやすく伝えることで、安曇野の自然について学ぶ。
[定量-2]				100.0%	
②	生物多様性アドバイザー連絡会議の開催 年3回	・工事等に際する動植物保護対策の検討 ・安曇野市版レッドデータブック改訂に関する実務	5月 12月 2月	3	年3回実施。公共事業に係る助言や、希少種保護の報告について助言を得た。今年度はレッドデータブック改訂版の概要版作成について議論を行った。
[定量-1]				100.0%	
③	希少種保全活動・会議への参加 年1回以上	・希少種の保全活動主催・支援等 ・会議への出席	5月 11月 3月	3	希少種の保全活動支援の実施。オオルリジミ保護対策会議への出席。
[定量-1]				300.0%	
※ 定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画した中止した=C 定量-2:実施回数/目標回数×100=A 60~100=B 30~59=C 10~29=D 0~=E 定性:良かった=A 悪かった=C					
2. Do(実行)					
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)				
①	3	3回の自然観察会を実施。市内の小中学生等を含む親子を対象に毎回30名程度が参加。身近な動植物の状況や環境の特徴を専門の講師を招き分かりやすく伝えることで、安曇野の自然について学ぶ。			7/6・ 7/27・ 2/22
[定量-2]	100.0%				
②	3	年3回実施。公共事業に係る助言や、希少種保護の報告について助言を得た。今年度はレッドデータブック改訂版の概要版作成について議論を行った。			6/6・ 8/22・ 3/14
[定量-1]	100.0%				
③	3	希少種の保全活動支援の実施。オオルリジミ保護対策会議への出席。			10/13・ 11/22・ 2/8
[定量-1]	300.0%				
3. Check(点検・評価)					
目標	達成状況	審議会の評価	成果	課題	
[評価区分]					
①	A	A	アンケート結果から、観察会に参加してもっと自然を大切にしたい、勉強したいといった気持ちの変化があったという回答が90%を超える高い値であった。		
[定量-2]			未就学～小学校低学年が多く、安全に配慮する必要があるため、1回の観察会への参加者を増やせない。		
②	A	A	公共事業に係る現地調査を行い、希少種や生態系の保全方法についてご意見いただいた。		
[定量-1]			レッドデータブック改訂を機に、生物多様性アドバイザー制度の周知を行い、市民や事業者に対して、より一層の希少種の保護の必要性を訴える必要がある。		
③	A	A	環境フェアでオオルリジミのワークショップを実施し、文化財と協力して啓発活動を行うこと出来た。オオルリジミ保護対策会議へ出席し情報共有ができた。		
[定量-1]			オオルリジミ保護対策会議及び関係機関と、より協力して保護施策を推進する。希少種について市民への周知方法。		
4. Action(改善)					
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]					
①	無	毎回応募者が多いが安全面の配慮から参加者は増やせないため、回数を増やす等多くの人が参加してもらえよう検討する。			
[定量-2]					
②	無	市のアドバイザー制度は先進的な取り組みであるため、制度の周知方法や、調査結果の蓄積・活用方法を検討したい。			
[定量-1]					
③	無	希少種については、可能な限り協力者や国・県、市民参加型の保護施策を確立していきたい。また、レッドデータブック改訂版の周知、活用により、市民へ希少種の情報共有を行っていく。			
[定量-1]					
環境審議会意見					
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する		15. 関連組織	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報あつみの市ホームページ</li> <li>・安曇野エコプラン.net</li> <li>・安曇野市版レッドデータブック</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市生物多様性アドバイザー</li> <li>・安曇野オオルリジミ保護対策会議</li> </ul>	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当・環境保全係			
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	特定外来生物リポーターの募集・情報提供依頼 新規登録者 5 人	・市広報紙、公式ホームページでの募集案内 ・環境フェア等の機会を活用し、特定外来生物及びリポーターの活動を知らせてもらうと共に、募集案内を行う。 ・市広報紙などによる駆除啓発	6月(通年)
[定量-2]			
②	駆除啓発に関する広報の実施 情報提供件数 50 件	・特定外来生物リポーター通信の発行 関係課のほか、安曇野建設事務所、土地改良区等と連携して駆除活動を実施	5月・2月
[定量-2]			
③	市内道路などにおける駆除活動 駆除作業の実施		5月
[定量-1]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	・市広報紙、ホームページ、イベント等で特定外来生物リポーターの募集と情報提供依頼を継続して実施していく。	
[定量-2]			
②	無	・市広報紙、ホームページ等で特定外来生物に関する情報発信を行い、市への生育状況報告へとつなげていく。	
[定量-2]			
③	無	・次年次以降も、関係団体、関係課等と特定外来生物の駆除活動を行う。	
[定量-1]			
環境審議会意見		・特定外来生物のリポーターを募集しているが、市民の方から情報提供もいただいているということで、リポーターの存在の意義、立ち位置はどうなのか、リポーターの有無について検討が必要なのではないか。事業自体は重要継続が必要。	

No. 2 外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。			
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	1人	・環境フェア等の機会を活用し、リポーター募集や外来生物に係る情報提供を依頼した。	10月
[定量-2]	20%		
②	80件	・市広報紙などによる駆除啓発を行った。	5月
[定量-2]	160%		
③	実施	・安曇野わさび田湧水群鶴いの池でオオカワヂシャ等の駆除活動(2回)を行った。	7月 9月
[定量-1]	100%		
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	D	D	一定数の特定外来生物生育状況報告が市にあがっている。
[定量-2]			特定外来生物リポーターの応募に伸び悩みが見られる。
②	A	A	一定数の特定外来生物生育状況報告が市にあがっている。
[定量-2]			特定外来生物生育状況報告を市に行う市民の裾野を広げることがある。
③	A	A	池に繁殖したオオカワヂシャを駆除することができた。
[定量-1]			駆除活動に参加する市民を増やしていく必要がある。
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
・市ホームページ			
<small>※ 定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画どおり中止した=C          定量-2:実施数/目標数×100=90~100=A 60~89=B 10~29=C 0~5=A-E          定性:良かった=A 悪かった=E</small>			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境係		悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。	
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	臭気指数規制対象事業場への改善対策指導 臭気指数基準超過事業場 事業場	臭気低減対策の進捗確認と臭気指数規制に基づく規制基準超過事業者ゼロにする。	通年
[定量-1]			
②	臭気モニター等による監視 1回/週	臭気状況把握のための巡回・監視及びモニターリング結果の活用(事業場への提供)。	通年
[定量-2]			
③	広報等による規制の周知 年1回以上	市民、事業場に向け「臭気指数規制」を周知する。	通年
[定量-2]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	有	関係課と連携して専門部会の設置を考えている。	
[定量-1]			
②	無	臭気モニター等の確認・巡回により悪臭発生状況(位置や強度)を確認できるため、苦情等により職員が確認した場所と合わせて該当箇所を事業場に伝え、改善を促していく。	
[定量-2]			
③	無	寄せられた苦情内容から傾向等を把握し、必要に応じて商工会・工業会・農業団体等を通じて事業場に規制内容や事例などを周知するなどし、良好な生活環境の保全に取り組んでいく。	
[定量-2]			
環境審議会 意見		・臭気の種類は畜産の臭気が多く基準超過が2件あったという ことであったが、畜産の臭気は防ぎようがなく難しい。引き続き 臭気測定はしていただき、事業者に対して対策を継続して いきたい。	
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	2事業場 0%	悪臭防止法に基づく臭気指数規制対策事業者に対して改善を促すとともに、夏場に臭気指数測定調査を6事業場に対して実施した。結果、2事業場で超過。	7~9月
[定量-1]			
②	98回 188%	臭気モニター等から提出された報告書により、臭気発生状況、発生事業場(原因)を把握し、該当事業場に情報共有を行っている。事業者には、この内容を確認し臭気改善に取り組んでもらっている。※回数は、公害監視員によるもの(R6.11月末)	通年
[定量-2]			
③	実施 100%	市民・事業者向けに広報紙に掲載。また、苦情の内容・地域に届りがあるため、関係部署とともに当該地域での経過紹介や悪臭防止啓発のためのチラシを作成、配布予定。	4月 7月
[定量-2]			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	E	E	臭気指数超過事業場に対し、臭気測定値を示し改善を促した。事業者の経営状況・判断にも影響されるなど、悪臭の解消には課題がある。
[定量-1]			
②	A	A	臭気モニター等が確認・巡回することで、発生状況(位置や強度)の確認ができ、詳細な指摘が可能になった。
[定量-2]			
③	A	A	臭気指数規制導入後、市民、事業者に対し、制度について周知を行った。
[定量-2]			
13. 情報の充実			14. 学ぶ・体験する
・広報あつみの ・市ホームページ			15. 関連組織

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 4		広報などごみ別の徹底を啓発する。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	期日等
[評価区分]	具体的内容 <td></td> <td></td>		
①	広報紙、ホームページ等で分別の徹底・食品ロス削減について啓発する	実施	通年
[定量-2]	広報紙、HP、分別アプリの活用	100%	
②	家庭用生ごみ処理機、コンポスター等の導入の推進	202件	通年
[定量-1]	交付確定件数100件/年	202%	
③			
<small>※ 定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画した中止した=C          定量-2:実施数/目標数×100=90~100%=A 60~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E          定数:良かった=A 悪かった=E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
①	A	A	広報紙やホームページでの啓発・周知を行うことができ
[定量-2]			た。分別アプリ、LINEのAIごみ分別案内を活用した情報発信。
②	A	A	生ごみ処理機器等への補助金交付確定件数は目標件数を上
[定量-1]			回った。
③			事業所からの申し込みが少ないため、補助金の活用についてPR
			が必要。(2月28日時点 1件)
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	広報紙、ホームページ、市公式LINE等を活用し、ごみ減量化に必須となる食品ロスの削減に向けた啓発を行う。	
[定量-2]			
②	無	生ごみ処理機の補助金は、事業所への設置も交付対象であることを広報し、事業所からの申し込みを増やす。	
[定量-1]			
③			
環境審議会意見		ごみの分別はしっかり市民に周知されてきている。引き続き取り組みを進めていただきたい。	
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報あつみのホームページ</li> <li>・資源物・ごみ分別促進アプリ</li> </ul>		15. 関連組織	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 5 事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)		
①	338.9t	・分別、減量化、資源化等ごみを減らし、いけるよ う対応と協力をお願いする。あわせて、ごみ処理 機の補助の利用についても周知する。 ・事業者に対して、紙類、木くずは豊利リサイクル センターに搬入で集めることを周知する。	通年
[定量-2]	100%		
②	1回	現状の問題点や課題等を共有 し、解決に向けて取り組む。	3月
[定量-1]	100%		
③			
※ 定量-1:実施した/A 実施しない/E 計画途中中止した=C 定量-2:実施回数/目標回数×100=90~100%=A 60~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E 定性:良かった=A なかった=C 悪かった=E			
3. Check(点検・評価)			
目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	成果
[評価区分]			課題
①	無	引き続き、事業者に対してリサイクルセンターの活用、生ごみ処 理機器等補助金の利用等、ごみ減量化へ繋がる施策の周知を 行う。	昨年度と比較し、事業系ごみの排出量が減少した。 引き続き事業者への啓発を行う。
[定量-2]			A
②	無	収集運搬業務における現状の問題点や課題等を共有し、解決 に向けた取り組みを行う。	なし
[定量-1]			A
③			なし
[定量-1]			
13. 情報の充実			
14. 学ぶ・体験する		15. 関連組織	
・広報あつみの ・市ホームページ		・安曇野市商工会	
環境審議会 意見			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 6 ごみの分別方法を分かりやすく説明する。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期待等
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	ごみ分別アプリの普及促進と情報の配信 利用者数3,400件/年	ごみ分別促進アプリの利用者数を把握し、情報の更新と発信を行う。	通年
[定量-2]			
②	環境フェア等における展示や出前講座等の開催、小学生に対する環境学習会の実施 年1回以上の開催	環境フェア等における展示や出前講座において、リデュース・リユース・リサイクルの3Rについて周知を図る。市内小学校4年生が行った環境学習センターの施設見学に合わせ、ごみの減量化について説明を行い、意識啓発を図る。	10月 通年
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
実施結果(数値)		具体的な実施内容	期待等
[結果/目標](%)			
①	1,082件	ごみ・資源物収集カレンダーの令和6年度版への差し替え、データの維持管理を行った。	通年
[定量-2]	31%		
②	9件	環境フェアではごみ減量化推進を啓発する展示を行った。 市内小学校9校の4年生が行った環境学習センターの施設見学に合わせ、ごみを減らすための工夫について説明した。	10月 通年
[定量-2]	100%		
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
達成状況			
①	C		
[定量-2]			
②	A		

【環境基本計画事業】		No. 7	
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。	
担当：ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係			
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分] <b>①</b> [定量-1]	公的施設における再生可能エネルギー設備設置 38施設	・PPA方式による太陽光発電システムの設置(6施設)及び温浴施設へのバイオマスボイラー設置検討(地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業を活用) ・職員によるノーマイカーなどの省エネ行動の実施 ・ゼロカーボンに向けた防止実行計画の見直し	通年
[定量-1]	市の事務事業における温室効果ガス削減		通年
[定量-1]	温室効果ガス削減率45%(2013年度比)		
<b>③</b> [定量-1]			
※定量-1:実施したA 実施しないE 計画が中止した=C 定量-2:実施数量/目標数量×100=90~100%=A 60~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E 定数:良かった=A 悪かった=C			
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分] <b>①</b> [定量-1]	40施設 105%	・太陽光発電は、PPA方式の活用等により、新たに12施設に設置した。(支所、給食センター、温浴施設等) ・温浴施設へのバイオマスボイラー設置(R7)に向けた調査・検討を行った。	通年
<b>②</b> [定量-1]	36%	ゼロカーボン・シティ実現に向け、市自身が率先実行すべく、従来の地球温暖化防止実行計画を改定し、新たに8つの重点施策等を定めた「市職員ゼロカーボン行動計画」を策定した。	10月
<b>③</b> [定量-1]	80%		
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分] <b>①</b> [定量-1]	A	A	目標どおり、再生可能エネルギー設備の設置を進めることができた。 太陽光発電をPPA方式で導入する場合は、事業性の観点から一定規模の屋根面積や使用量が必要だが、これに適合しない小規模施設が多い。
<b>②</b> [定量-1]	B	B	目標達成に向けては、更なる施策の強化が求められる。 新たに策定した「市職員ゼロカーボン行動計画」に掲げる施策を着実に推進していく必要がある。
<b>③</b> [定量-1]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分] <b>①</b> [定量-1]	無	・引き続きPPA方式等の活用により、公共施設への太陽光発電設備の設置を進める。また、希望する民間施設への普及を検討する。 ・温浴施設へのバイオマスボイラー導入に向け、関係者と調整を進める。	
<b>②</b> [定量-1]	無	新たに策定した「市職員ゼロカーボン行動計画」の内容を全庁で共有し、8つの重点施策等の着実な予算化・推進に取り組む。	
<b>③</b> [定量-1]			
環境審議会意見		13. 情報の充実	
・温室効果ガス削減に向け、引き続き積極的に取り組んでほしい。		14. 学ぶ・体験する	
・市ホームページ		15. 関連組織	

【環境基本計画事業】		No. 8	
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	
担当：ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係			
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	環境家計簿の運営・結果の公表	・広報紙・ホームページへの結果・取り組みの紹介、子供向けの様式の作成	通年
[定量-2]	回収数 85世帯		
②	環境家計簿実施世帯の平均二酸化炭素排出量削減	・記録票の収集、排出量の把握	1月
[定量-2]	前年度比2%削減(目標削減量 132.0 kg-CO2)	・目標削減量、排出量削減のための具体的な取り組みの周知	
③	ゼロカーボンに関するイベントの企画・運営	・ゼロカーボンに関する内容について取り上げ、市民の意識を高める	10月
[定量-1]	環境フェア等の開催	・子供向けの啓発の充実	
※ 定量-1:実施した%A 実施しない%E 計画どおり中止した=C 定量-2:実施数/目標数×100=90~100%=A 60~89%=B 30~89%=C 10~29%=D 0~9%=E 定数:良かった%A 悪かった%B=C			
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	回収数 65世帯	・市広報紙・ホームページにおいて、参加者募集や前年の取組結果の公表を行った。 ・子ども自身が取り組める「子どもエコチャレンジ」を新たに作成・配付した。	12月
[定量-2]	76%		
②	前年度比4.4%削減	・市ホームページにおいて、排出量削減のための具体的な取組みを周知した。 ・参加者に記録の取集案内を送付した。	1月
[定量-2]	220%		
③	実施済	・環境フェアでは、市内(鶴高)の気温の経年変化を展示する等、市民に温暖化を身近に感じてもらう工夫を行った。 ・子ども自身が取り組める「子どもエコチャレンジ」を新たに作成・配付し、子ども向けの啓発を充実した。	10月
[定量-1]	-		
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	B	B	前年は69世帯となっており4世帯の減となった。環境フェアにて「子どもエコチャレンジ」を配布し、子どもへの意識啓発を行った。 参加者の増加
[定量-2]			
②	A	A	削減量は目標を上回る290.8 kg-CO2(4.4%の削減)となった。 なし
[定量-2]			
③	A	A	パネル展示や子ども向け啓発の充実により、温暖化の現状やゼロカーボンの取組みを身近に感じてもらうことができた。 継続的な広報・啓発が必要である。
[定量-1]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	参加者への継続した取り組みの推進、また、市広報紙・ホームページ等広報を行う。また、次期計画に向けて指標の検討を行う。	
[定量-2]			
②	無	引き続き、取組事例を周知し排出量削減を推進していく。また、次期計画に向けて指標の検討を行う。	
[定量-2]			
③	無	より多くの市民に温暖化の現状を知り、具体的な行動につながるよう、分かり易い広報・啓発に努めていく。	
[定量-1]			
13. 情報の充実			
・広報あつみのホームページ		14. 学ぶ・体験する	
・市ホームページ		15. 関連組織	
環境審議会意見		安曇野環境フェア 環境家計簿	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：財産管理課 施設経営担当			
No. 9 公共施設を建設する際に省エネ機器・設備を率先導入する。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	省エネ機器・設備の導入	新築・改修物件でLED機器(人感センサー付き)、節水機器、冷暖房省エネ機器の導入	通年
[定量-2]	節電、節水の向上(100%)		
②	冷暖房負荷低減建材の導入	高断熱性能建材等の導入で熱負荷の低減	通年
[定量-2]	断熱性能の向上(新築100%)		
③	自然エネルギー設備の導入	太陽光・地中熱等設備の導入で環境負荷の低減	通年
[定量-1]	環境負荷の低減(新築100%)		
3. Check(点検・評価)			
※ 定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画どおりに止めた=C 定量-2:実施回数/目標回数×100=90~100%=A 60~89%=B 10~29%=D 0~5%=E 定性:良かった=A 悪かった=E			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	設備投資費と節電節水のバランスを意識し、使用状況に応じた器具を選定する。	
[定量-2]			
②	無	設備投資費と熱負荷軽減のバランスを意識し、断熱性能の高い建材等を選定する。	
[定量-2]			
③	無	設備投資費、維持管理費のバランスを意識しつつ、自然エネルギーを活用する設備を選定する。	
[定量-1]			
環境審議会意見			
・公共施設への省エネ機器の採用・導入など良く取り組みの推進が図られている。引き続き取り組みを進めていただきたい。			
13. 情報の充実			
14. 学ぶ・体験する			
15. 関連組織			
しゅん工ハンプレット作成支援		施設見学への受入支援	
対象外		対象外	



【環境基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係

No. 11		住宅等建物への太陽光発電（PPA事業を含む）の取り組みを進める。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
目標(数値目標) [評価区分] ① [定量-2]	太陽光発電システム設置への補助 補助金交付170件	一律75,000円の補助金交付	通年
② [定量-1]	定置型蓄電システム設置への補助 補助金交付100件	一律75,000円の補助金交付	通年
③ [定量-1]	グループワーク・フォーカス(共同購入)・既存住宅エネルギー自立化補助(金野県)への協力 広報等での協力	県との情報交換 広報等への協力	通年
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	236件 139%	・市広報紙・ホームページ、新聞での周知を実施 ・8/27に予算額に達したため、9月議会において補正予算措置を行った。	通年
② [定量-1]	161件 161%	・市広報紙・ホームページ、新聞での周知を実施 ・8/27に予算額に達したため、9月議会において補正予算措置を行った。	通年
③ [定量-1]	実施済 -	・県担当者との意見交換を実施。 ・市広報紙、ホームページにより、県制度の紹介や市の補助制度との併用について周知した。	6月 通年
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	成果 課題
① [定量-2]	無	住宅の地球温暖化対策の促進に向け、継続して支援を行う。	前年度(155件)を上回る申請状況となっている。 なし
② [定量-1]	無	住宅の地球温暖化対策の促進に向け、継続して支援を行う。	前年度(90件)を上回る申請状況となっている。 なし
③ [定量-1]	無	引き続き県と連携し、各制度の周知・啓発を図っていく。	県事業と連携した周知啓発が図れた。 なし
環境審議会 意見		・目標を上回る申込件数があったことは良い成果であった。	14. 学ぶ・体験する 15. 関連組織 長野県環境部環境政策課

【環境基本計画事業】		環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		No. 12		自動車の使用を極力削減し、自転車・徒歩でのライフスタイルへの転換に向けた普及啓発を推進する。	
担当：ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係							
<b>2. Do(実行)</b>							
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等	
[評価区分]	目標(数値目標)			[結果/目標](%)			
①	公用車使用の見直し 公用車(共用車両)使用率 前年度比2%削減	・短距離移動での徒歩・自転車利用の促進、エコドライブの推進 ・原則EV等の電動化の検討(防止実行計画の見直し)	通年	323,625km R6:(344,871km) 6%	新たに「市職員ゼロカーボン行動計画」を策定し、公用車更新時の原則EV化、出張時のEV・公共交通の積極的利用を重点施策に設定した。	10月	
[定性]							
②	エネルギー消費削減に向けた自動車利用の転換の促進 補助金交付10件	・環境フェアによるEV車等の普及啓発 ・電気自動車等充電設備(V2H)設置への補助(一律75,000円)	通年	11件 110%	・環境フェアにおいて、EV車、FCV車を展示した。 ・電気自動車等充電設備(V2H)は、広報に努めた結果、8/27に予算額に達したため、9月議会において補正予算措置を行った。	9、10月	
[定量-2]							
③							
[定量-1]							
<small>※定量-1:実績値/A 実績値ない⇒E 計画したが中止した⇒C          定量-2:実績数値/目標数値×100⇒90~100⇒A 60~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E          定性:良かった⇒A 悪かった⇒E</small>							
<b>3. Check(点検・評価)</b>							
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	達成状況	審議会の評価	成果課題		
[評価区分]							
①	無	新たに策定した「市職員ゼロカーボン行動計画」の内容を全庁で共有し、公用車更新時の原則EV化、出張時のEV・公共交通の積極的利用を推進する。	A	A	目標を超える削減がされている なし		
[定性]							
②	無	環境フェア等において、環境性能の高い車両の普及啓発を図る。 ・引き続き電気自動車等充電設備(V2H)への支援を継続する。	A	A	・環境フェアにおいて、EV・FCV車を身近に感じてもらうことができた。 ・V2Hは前年度(9件)を上回る申請状況となっている。 なし		
[定量-2]							
③							
[定量-1]							
<b>13. 情報の充実</b>							
14. 学ふ・体験する							
15. 関連組織							
<b>環境審議会意見</b>							
・市においては、公用車にEVを導入するなど取り組みが進んでいる。							

【環境基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：環境課 環境政策担当・ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係

1. Plan (計画)		2. Do (実行)		3. Check (点検・評価)		4. Action (改善)	
目標	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等	目標	達成状況
①	環境学習プログラムの周知 年3回以上	自然観察会など環境イベントを 小中学校へ案内	5 166%	環境学習プログラムのチラシ、自然観察会開催案内を 小中学校に配布。高校生へ環境フェア展示用ポスターの 制作依頼及び環境フェア出展依頼。	7月2回・ 10月・2 月	①	A
②	出前講座の実施 年2回以上	ゼロカーボン、特定外来生物、 SDGsなどをテーマに実施	4 200%	・地下水をテーマとした講座を開催(豊科北小学 校・豊科北中学校・三郷中学校)・特定外来生 物に関する出前講座(豊科南小学校)	5/14・ 5/30・ 6/14・ 10/21	②	A
③						③	
<p>※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒C 計画したが中止した⇒C                  定量-2:実施数値/目標数値×100⇒90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E                  定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C悪かった⇒E</p>							
目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	達成状況	審議会 の評価	成果	13. 情報の充実	
①	無	環境学習プログラムのチラシ配布を小中学校へ行っているが、 環境学習に活用いただくよう推進する。	A	A	自然観察会へは多くの小学生が参加した。環境フェアでは高校生の環境ポ スター展示及び高校生による動物とのふれあいブースが出展された。 自然観察会以外のイベントについての周知方法の検討が必要。 児童、生徒たちが関心を持って講座を受けており、受講後は多く の意見が出された。	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
②	無	環境学習に活用できる出前講座のチラシ配布等、学校への周 知を積極的に行う。	A	A	自然観察会以外のイベントについての周知方法の検討が必要。 児童、生徒たちが関心を持って講座を受けており、受講後は多く の意見が出された。	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
③					小中学校へは多くの小学生が参加した。環境フェアでは高校生の環境ポ スター展示及び高校生による動物とのふれあいブースが出展された。 自然観察会以外のイベントについての周知方法の検討が必要。 児童、生徒たちが関心を持って講座を受けており、受講後は多く の意見が出された。	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
環境審議会 意見		・小中学校の子供に対する教育は必要なので継続していただ きたい。		自然観察会		広報あづみの 市ホームページ	安曇野市内小中学校 安曇野市内高等学校

【環境基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：環境課 環境政策担当

No. 14		地域活動(隣組・区・地区・地域公民館・自治会組織など)の場などで環境学習会を開催し、出張啓発を行う。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	3 150%	特定外来生物に関する出前講座(狐島環境保全会)、脱炭素推進に関する出前講座(細宮区)、地下水をテーマにした講座(新日本婦人の会)	1/28、 2/10、 3/1
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画し中止した⇒C                      定量-2:実施数値/目標数値×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E                      定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
① [定量-2]	A	A	市民の環境に対する意識向上・啓発を図ることができた。環境に関する出前講座を活用してもらおうという区などへの周知方法。
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会意見
① [定量-2]	有	出前講座の開催を各区や公民館事業へ積極的に周知をする。出前講座を開催することで、環境に対する意識の向上を図る。	・課題として環境の出前講座の周知をしていきたいとあるので、今後、区長会、環境部会において周知していただくようお願いしたい。
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
広報あづみの市ホームページ			

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 15 薪の地産地消費率向上を推進する。			
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	安曇野産の薪供給体制の整備推進 体制整備推進のPJ会議等の開催3回以上	・プロジェクト会議の開催 ・山林所有者や事業者との生産供給体制整備を目的とした交流及び検討 ・薪の生産・研修等々の開催	通年
[定量-2]			
②	薪ボイラーへの薪供給 薪の提供量 年間300m <sup>3</sup>	・しゃくなげの湯への薪の提供	通年
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	会議=2回 66%	・里山まきの環プロジェクト会議の開催し、薪供給体制及び整備を目的とした講習会を計画、第3次計画に向けたプロジェクトの取組目標等を検討した。	通年
[定量-2]			
②	薪供給量=165.2m <sup>3</sup> 55%	・しゃくなげの湯への薪供給 165.2m <sup>3</sup> (12月末現在) ・しゃくなげの湯施設に松枯れ材を利用している旨看板を掲示	通年
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会意見
[評価区分]			
①	無	薪生産フィールドは、獣害や荒廃森林など問題を抱えた山林を対象に体制を構築していく方向に進めている。	(主な推進組織の名称、里山再生計画推進協議会) しゃくなげの湯への薪の供給量が減少している原因や課題等について点検するとともに、施設を所管する観光課、指定管理者をはじめ、環境課やゼロカーボン推進課、耕地林務課が連携して化石燃料から木質バイオマス燃料へのさらなる転換を推進する体制や取り組みを増加に向けた取組が
[定量-2]			
②	無	施設の利用者に対し、地域課題の解消に繋げた取組みを実施していることについて、周知を高めていく必要がある。	
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
<b>5. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	B	プロジェクト会議を開催し、安曇野産薪材の利用や供給体制の構築など検討を進めている。	プロジェクト会議を開催し、安曇野産薪材の利用や供給体制の構築など検討を進めている。
[定量-2]			
②	C	松枯れ材を薪として生産し、しゃくなげの湯に計画的に供給できている。	松枯れ材を薪として生産し、しゃくなげの湯に計画的に供給できている。
[定量-2]			
③		安定供給するための原木の確保と施設側の使用量の増加に向けた取組が課題	安定供給するための原木の確保と施設側の使用量の増加に向けた取組が課題
[定量-2]			
③			
[定量-2]			

※定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画じが中止した=C  
 定量-2:実施数量/目標数量×100=90~100=A 60~89=B 30~59=C 10~29=D 0~9=E  
 定性:良かった=A 悪かった=C 悪かった=E

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

1. Plan (計画)		2. Do (実行)		3. Check (点検・評価)		4. Action (改善)	
目標	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定時期	目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期待等
① [定量-2]	里山木材活用プロジェクト会議等の開催 年5回開催	・木材供給調整 ・安曇野材活用研究会会議開催 ・安曇野材の情報提供	通年	① [定量-2]	6回 120%	・里山木材活用プロジェクト会議の開催 3回 ・あつみの里山市実行委員会会議開催 3回 ・安曇野材の地域循環を推進する仕組みづくり「伐採、製材、木材活用の情報が見える化」システムを試行。	通年
② [定量-2]	あつみの里山市の開催 参加者数200人	・安曇野材の展示・販売 ・安曇野材のPR	11月	② [定量-2]	92組、206名 105%	・第9回あつみの里山市を開催 安曇野産材の展示販売や安曇野の里山に関連した商品の紹介や販売を実施。	11月
③ [定量-2]				③ [定量-2]			
<small>※定量-1:実施した%A、実施しない%E 計画しなかった=C                      定量-2:実施回数/目標回数×100: 90~100%=A 60~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E                      定性:良かった=A 悪かった=C</small>							
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見	目標	達成※ 状況	成果 課題	環境審議会 意見
① [定量-2]	無	里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくり「情報の見える化」システムにより、伐採、製材、木材活用がそれぞれ需要に適した運用として定着できるよう必要により適宜改善を図っていく。	・新しく作っている「伐採、製材、木材活用の情報が見える化」システム」に期待している。その中で課題を見つけて、いいシステムに仕上げていってほしい。	① [定量-2]	A	安曇野材を活用できる生産・流通の仕組みづくり「情報の見える化」システム」を試行した。 現在試行段階であるが、それぞれの立場で必要な情報が得られているのか確認しながら、より使いやすいシステムを作っていく。	
② [定量-2]	無	あつみの里山市は安曇野材に触れられるイベントとして定着してきており、今後も継続的に開催していく。		② [定量-2]	A	会場の広さや、駐車場数などを考慮し、来場は事前予約制とした。 他の場所での開催は、難しいことから来年度以降についても事前予約として開催していく方向。	
③ [定量-2]				③ [定量-2]			
環境審議会 意見				推進組織等 意見		(主な推進組織の名称: 里山再生計画推進協議会) 里山木材活用プロジェクト等で実施している各種見学会や「堀金中木づくりプロジェクト(学習机の天板を安曇野産アカマツに取り換えるワークショップ)」など、定型化してきた取り組みをいかに多方面へ広げられるか検討してほしい。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 17		里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[詳細区分]	実施結果(数値)		
	[結果/目標](%)		
①	9回	・里山学びの環プロジェクト会議を開催し、さとぶろ。学校の運営企画検討実施 2回	通年
[定量-2]	300%	・さとぶろ。学校の各講座内容の調整会議 7回	
②	年7講座 延べ受講者数103人	「さとぶろ。学校」の開催 特別講座の開催	4月～12月
[定量-2]	147%		
③			
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	成果	課題
[詳細区分]			
①	A	さとぶろ。学校の運営調整会議など必要により適宜開催できたことにより、内容の充実した講座を開催することができた。	
[定量-2]		受講生のニーズに合った講座内容について引き続き検討していく。	
②	A	・本年度も昨年と同様に7講座として開催。20～80代の幅広い年代から参加があった。 ・受講後、多くの受講生がさとぶろ。の活動グループなどで里山活動を開始。今後も増えるさとぶろ。学校修了生が、里山で活動するためのフィールドや機会を確保する方策の検討が必要。	
[定量-2]			
③			
環境審議会意見		(主な推進組織の名称：里山再生計画推進協議会)	
環境審議会意見		「さとぶろ。学校」修了生が活動できるフィールドや機会の確保について課題となっているが、これをどうアセスメントし、課題解決に向けた取組を進めるか、その仕組みづくりが求められる。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 18		松枯れ対策事業を継続して行う。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
① [定量-2]	松枯損木伐倒くん蒸処理の実施 処理内の松枯損木数1,000本/年以下	・松枯損木伐倒くん蒸処理の実施 ・処理計画区域(三郷・堀金)	通年
② [定量-2]	薬剤散布による防除の実施 散布内の松枯損木数30本/年以下	・薬剤散布による防除 ・実施計画面積5ha/年	6月
③ [定量-2]	樹幹注入による予防の実施 処理区域内松枯損木10本/年以下	・樹幹注入による予防 ・処理区域5ha	11月 ~ 3月
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	成果課題	期日等
[評価区分]			
① [定量-2]	A	区域内(堀金・三郷)の枯れた松の処理 二次被害の防止	通年
② [定量-2]	A	有人へりによる散布を5ha実施 樹幹注入事業の検討。希少動植物への配慮。	6月
③ [定量-2]	A	樹幹注入を計画的に更新し、予防することができた。 樹幹注入の効果期間の適正管理による継続的な実施。	11月 ~ 3月
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会意見
[評価区分]			
① [定量-2]	無	年間処理本数1,000本は下回っているが、毎年同規模の処理が必要となっている。被害が増えないように監視し処理を進め、二次被害防止に努めたい。	・環境審議会 意見
② [定量-2]	無	無人へりによる薬剤散布を令和3年度から廃止。薬剤散布に替わる対策として令和2年度から樹幹注入により範囲を限定して対策を実施。有人へりについては計画通り実施していく。	・薬剤散布は、広範囲で松枯れ対策を行うという意味では一つの手法だが、マイナス面もあるので、マイナス面のリスクと効果を評価した上で行ってほしい。
③ [定量-2]	無	樹幹注入した松の枯損は少なく、継続的な更新を行う。	
<b>5. 推進組織等意見</b>			
(主な推進組織の名称: 松くい虫被害対策協議会)			
協議会5月開催予定			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：農政課 農村振興担当			
No. 19 農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。			
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期待日
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	認定農業者数291経営体 108%	「地域計画」策定により担い手及び新規就農者の確保、農業支援サービスの拡充について市内JAとの検討。	通年
[定量-2]			
②	集落営農組織数24組織 93%	集落懇談会への参加による支援	通年
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
<small>*定量-1:実施した⇒A 実施しなかった⇒C          *定量-2:実施数/目標数×100 90~100⇒A 80~89⇒B 30~89⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E          定性:良かった⇒A 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	担い手を確保することで農地の多面的機能の維持・確保した。	
[定量-2]		農業従事者数の減少が続いていく中、目標人数を達成させるために、引き続き適切に支援策を講じていく必要がある。	
②	A	集落営農組織設立に係る相談対応を県と連携して実施した。	
[定量-2]		相談体制や助成制度の整備等の支援策を用意することはできて、組織の設立そのものは農業者の自主性に全面的に依らざるを得ない。	
③			
[定量-2]			
環境審議会意見		(主な推進組織の名称・農業者・農村振興計画推進委員会) 集落営農組織の構成員の高齢化が進んでいることから、今後、組織数の減少が懸念される、集落営農組織の持続可能な体制の整備が必要。	
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	今年度は目標値を達成できた。今後も農業従事者数の減少が続いていくと見るが、次年度も認定農業者数の目標値は達成できるものと展望している。	
[定量-2]			
②	無	一部の集落営農組織で解散があった。今後、各農家の高齢化により集落営農組織の重要性がより一層増してくるから、地域の話し合いを進め組織化を推進して行く必要がある。併せて、既存の集落営農組織の構成員の高齢化に備えていく必要がある。	
[定量-2]			
③			
[定量-2]			

【各分野】における基本計画事業

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：農政課 農村振興担当・農業委員会

No. 20 荒廃農地対策を行う。

1. Plan (計画)

目標	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定 時期
① [定量-2]	荒廃農地の解消支援 荒廃農地面積40ha	・利用状況調査等の実施 ・安曇野市 荒廃農地解消事業の周知及び活用の促進 ・非農地決定手続きの推進	通年
②			
③			

2. Do (実行)

目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	荒廃農地面積 14.8ha 100%	荒廃農地の発生・解消状況に関する調査、農業委員による啓発活動、利用権設定手続き、荒廃農地解消支援金の活用	通年
②			
③			

※定量→実施した%A、実施しない%E 計画しなかった%A  
定量×実施数量/目標数量×100: 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E  
定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

4. Action (改善)

目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など
① [定量-2]	無	農業の担い手の努力により荒廃農地は減少している。次年度も支援金交付等の支援策を継続していく。
②		
③		

3. Check (点検・評価)

目標	達成※ 状況	成果 課題
① [定量-2]	A	農政課と農業委員会が連携して、荒廃農地の発生を抑制した。 荒廃農地は減少しているが、担い手の減少等により農地が今後荒廃していく可能性が高いので、担い手の確保等の荒廃防止の取り組みを続けていく必要がある。
②		
③		

推進組織等  
意見

(主な推進組織の名称: 農業・農村振興計画推進委員会)  
耕作放棄地の解消のための荒廃農地解消事業の活用が低調であることから、積極的な周知を図る必要がある。

環境審議会  
意見

・荒廃農地に関しては、確実に農地転用もあり減少しているが、今後も荒廃農地の減少対策を継続していただきたい。

【各分野】における基本計画事業

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：農政課 生産振興担当

No. 21 有機米の学校給食提供の取り組みを行う。

1. Plan(計画)

目標	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定 時期
① [数量-1]	学校給食へ有機米の提供 年4回	学校給食課と連携し、市内学校給食へ有機米を提供する。有機農業等様々な農法を子どもたちに知ってもらい、農業への理解を深めてもらう。	11月～ 3月
②			
③			

2. Do(実行)

目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [数量-1]	4回 100%	学校給食課と連携し、学期各1回(年4回)有機米等を提供。各給食センターが厭立を計画し、地産地消の取組と併せて実施。児童、生徒向けに生産者や環境に配慮された農業の紹介を行った。	4月～3 月
②			
③			

※数量-1:実施した=A、実施しない=C  
 数量-2:実施数量/目標数量×100: 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E  
 定性:良かった⇒A 悪かった⇒C

4. Action(改善)

目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など
① [数量-1]	無	環境に配慮された農業の紹介については、概ね子どもにも伝わっていると思われるが、表面的な取組みになりがちなので、担任の先生等の関係者とも連携し、継続することで理解を得たい。また、米を提供する生産者数の増を目指し、周知と認知を図りたい。
②		
③		

3. Check(点検・評価)

目標	達成※ 状況	成果 課題
① [数量-1]	A	児童、生徒に対し、環境に配慮された農業の紹介ができた。 担任の先生の取り組み内容によって差が生じる場合がある。
②		
③		

環境審議会 意見	・有機米を学校給食に提供することで、子供たちに農業を知ってもらうことは必要である。継続していただきたい。
-------------	--

推進組織等 意見	(主な推進組織の名称: 農業・農村振興計画推進委員会) 特になし
-------------	-------------------------------------

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 22		鳥獣被害防止計画を策定(見直し)し、実施する。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	農作物鳥獣被害対策支援 農作物被害金額5,942千円	・安曇野市野生鳥獣被害防止対策補助金の活用 ・地域に適した対策の研究	通年
[定量-2]			
②	有害鳥獣捕獲推進 大型獣捕獲計画数計700頭(3月変更サル300・シカ350・イノシシ50)	・狩猟免許の取得支援 ・捕獲技術の高度化支援	通年
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	1,255千円	・補助事業のホームページ等による周知を実施 ・サル用GPS装置活用による追払いの活動	通年
[定量-2]	100%		
②	588頭	・新規狩猟者に支援 ・有害獣駆除、一斉捕獲による個体数調整を実施 ※令和6年度実績値(昨年度実績298頭) (捕獲数:サル274頭、シカ288頭、イノシシ26頭)	3月末 通年
[定量-2]	84%		
③			
[評価区分]			
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	サル追払いにより、有明群の里地に100%居たサルが50%に減少した。	サル追払いにより、有明群の里地に100%居たサルが50%に減少した。
[定量-2]			
②	B	農業被害をもたらずシカ、サルの個体数調整を実施した。	サル追払いの時間帯を避けて出沒することがあるので、時期等現状に合った追払いの検討が必要である。
[定量-2]			
③		一斉捕獲及びわな捕獲を今以上に進める必要がある。	
[評価区分]			
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会意見
[評価区分]			
①	無	引続き、農家個人による自己対策を推進するとともに、地域と猟友会、追払い隊、市が連携し、捕獲、追払いを実施していく。	
[定量-2]			
②	無	大型獣の捕獲を引き続き実施し農業被害を軽減していく。	
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
環境審議会意見		・駆除後のジビエへの活用も行ってほしい。	
推進組織等意見		(主な推進組織の名称:有害鳥獣対策協議会) 令和7年9月10日開催 シカ捕獲の新補助金の成果があり、捕獲数が増えた。ジビエで有効利用できるように進めてほしい。	

【各分野】における基本計画事業

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 耕地担当

No. 23 多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。

1. Plan (計画)

目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[詳細区分]	目標(数値目標)		
①	田圃風景の保全のため、取組面積の増加を図る	遊休荒廃農地解消の取り組みや、水路や農道敷の草刈り作業により、安曇野の田圃風景の保全を図る。	5月～11月
[定量-2]	事業取組面積 3,750ha		
②			
[定量-2]			
③			

2. Do (実行)

目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[詳細区分]	[結果/目標](%)		
①	3,717ha	現在活動中の組織に事業範囲の確認、見直しを要請した。	5月～11月
[定量-2]	99%		
②			
[定量-2]			
③			

4. Action (改善)

目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など
[詳細区分]		
①	無	農地転用等により面積が減ってしまった。活動組織に事業範囲の見直しを要請し、事業取組面積を増やす必要がある。
[定量-2]		
②		
[定量-2]		
③		

3. Check (点検・評価)

目標	達成状況	成果
[詳細区分]		
①	A	事業範囲の確認をした結果、農地転用等により面積が減となった。事業面積をさらに拡大し、田圃風景の保全を進める必要がある。
[定量-2]		
②		
[定量-2]		
③		

環境審議会  
意見

・農業の継続的な意義にも繋がるため、事業を継続していただきたい。

推進組織等  
意見

(主な推進組織の名称：農業・農村振興計画推進委員会)  
特に意見なし



【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 建築住宅課 建築景観係

No. 25 景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。

1. Plan (計画)

目標	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定 時期	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	景観及び屋外広告物の周知・啓発 年9回	景観条例、屋外広告物条例の周知に伴う広報及び講座の開催	通年	12回 133%	1.屋外広告物適正化旬間の案内 2.標榜フェアでの景観についての周知、広報 3.景観住民協定向けの視察研修開催 4.窓口、ホームページ等による周知、広報	
② [定量-2]	景観及び屋外広告物パトロール 年36回	景観及び屋外広告物パトロールにより、未申請案件の把握と適正な指導を行う。	月2回 随時	37回 102%	・重要路線の定期パトロールによる巡回(月2回) ・未確認案件の現地確認、写真等の記録 ・未申請案件の指導、申請手続き	
③						

4. Action (改善)

目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など
① [定量-2]	無	引き続き、新たな周知方法の検討を行いながら周知・啓発を実施していく。
② [定量-2]	無	引き続き、新たな周知方法の検討を行いながらパトロールを実施していく。
③		

3. Check (点検・評価)

目標	達成※ 状況	成果 課題
① [定量-2]	A	数値目標を達成する。景観及び屋外広告物に関する周知・広報を行った。一定量の認識向上にはなっているが、周知・広報の効果を検証しながら新たな周知方法の検討が必要。
② [定量-2]	A	パトロールにより、未申請案件などを指導し、申請等手続きを行った。未申請案件があるため、パトロールを継続して行うが、新たな周知方法の検討が必要。
③		

推進組織等  
意見  
(主な推進組織の名称：景観審議会)

・引き続き取り組みを推進してほしい。

環境審議会  
意見  
・パトロールを実施することにより違法広告の発見につながっているという効果があるとのことなので、引き続き継続していただきたい。

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：環境課 環境政策担当

1. Plan (計画)		2. Do (実行)		3. Check (点検・評価)	
目標	実施内容 目標(数値目標)	目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)
①	地下水講座等の開催 参加者延190人以上	①	402	①	5/14:豊科北小4年生(90名)、5/20:豊科北中2年(31名)、8/1:安曇野水めぐりツアー(20名)、6/13:明人大学(56名)、8/9:オンライン安曇野暮らしセミナー(38名)、9/6:大阪公立大ワーカーズアップ(9名)、10/21三郷小4年生(156名)、3/1地域団体(20名)
②	人為的な地下水涵養 260万m <sup>3</sup> /年	②	288.5万m <sup>3</sup> 111%	②	人為的な地下水涵養実施に向けて他課と協力し取り組んだ。 ・事後湛水事業 作付面積164.7ha 186.5万m <sup>3</sup> ・新規需要米(飼料)作付面積141.5ha(H28年度面積100.3ha)102万m <sup>3</sup> 面積(41.2ha)×涵養高(0.0275m/日)×水田湛水日数(90日)
③		③		③	
<small>※定数→実施した⇒A、実施しない⇒E 計画しが中止した⇒C 定数→実施回数/目標回数×100 90~100⇒A 60~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E 定数→実施した⇒A、実施しない⇒E 計画しが中止した⇒C 定数→実施回数/目標回数×100 90~100⇒A 60~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E 定数→実施した⇒A、実施しない⇒E 計画しが中止した⇒C</small>					
4. Action (改善)		5. Check (点検・評価)			
目標	変更の 必要性	目標	達成※ 状況	目標	成果 課題
①	無	結果の検証と次年度への展望など 本年度は、活動形態や対象者が幅広くなった。また、企業や水結登録者(ボランティア)がスタッフとして参加した。今後も、市民・企業も伝え手にもなるような取り組みに広げたい。	A	①	小中学校に加え、明人大学受講者・大学生・移住希望者に対しても開催できた。水めぐりツアーでは事業者の涵養の取り組みも紹介した。
②	有	冬の涵養施策については、信州大学の委託調査及び関係機関への相談・調整により、研究を進めている。	A	②	年度目標の達成に向けた取り組みができた。 秋から冬にかけて、地下水位の低下・湧水量の減少傾向がある。
③				③	
環境審議会 意見	・農地の地下水涵養だけでなく、公共施設を使った地下浸透も検討してほしい。	推進組織等 意見	(主な推進組織の名称：水環境審議会)		冬の地下水涵養について研究を進めてほしい。

【各分野/における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：環境課 環境政策担当

No. 27		雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	雨水貯留槽施設設置補助基数 15基/年	水の節水を目的に、市民向けへ施設設置補助の周知及び設置数の増を進める。	通年
[定量-2]			
②			
③			
[評価区分]			
①	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[結果/目標](%)			
①	26基	補助制度の活用を促すため、チラシを刷新し、小売店での掲示のほか、SNS等にも掲載した。	通年
[定量-2]	173%		
②			
③			
[評価区分]			
①	達成※ 状況	成果	
[評価区分]		課題	
①	A	当初の申請見込み数を上回り、活用者が大幅に増加した。 申請数が大幅に増えたことを活用し、さらに制度の周知度を高めること。	
[定量-2]			
②			
③			
[評価区分]			
①	推進組織等 意見	(主な推進組織の名称：水環境審議会)	
[評価区分]		一般家庭で雨水を活用することが節水にもつながり、地下水涵養にもつながるので、積極的に推進してほしい。	

※定量-1:実施した⇒A、実施しない⇒E 評価した⇒C  
 定量-2:実施数/目標数×100 90~100⇒A 60~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E  
 定性:良かった⇒A 悪かった⇒E

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：移住定住推進課 空家活用係

No. 28		管理不十分な空家などへの指導をする。	
<b>2. Do(実行)</b>			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
目標 (数値目標) ① 空家対策補助金の交付による空家活用及び解体における環境保全の促進 [数量-2] 補助金交付45件 ② 空家相談会、講座、空家空き店舗見学会の開催 [数量-1] 年5回以上 ③ 立ち入り調査に基づく適切な指導 [数量-1] 特定空家の解消(5件以上)	空家対策補助金の交付による空家活用及び解体における環境保全の促進 補助金交付45件 空家相談会、講座、空家空き店舗見学会の開催 年5回以上 立ち入り調査に基づく適切な指導 特定空家の解消(5件以上)	空家所有者への個別周知により、空き家バンク活用と移住等による空家活用及び解体を促進するため、空家対策補助金の利用向上を図る。 ・空家相談会、講座などを実施し、相続登記義務化など幅広い予防啓発など周知を図る。空家空き店舗の見学会によるマッチング強化とまちづくりに生かす空家活用を推進する。 ・所有者による自発的な行動を促すため特定空家への認定を進め、助言・指導・勧告による特定空家の解消を図る。	通年 通年 通年
実施結果(数値) [結果/目標](%) ① 88件 [数量-2] 196% ② 16回 [数量-1] 320% ③ 2件 [数量-1] 40%	具体的な実施内容 補助金制度は、所有者及び活用者向けと地域活性化を要件とする13メニューの支援体制となっている。 ・片付け清掃 10件・空家解体 28件・ようこそ、安曇野へ 15件・生かそう、地域資源 3件・空き家バンク支援(登録者) 10件・空き家バンク(移住者) 12件・地域活性化(空家活用) 1件 空家に関する相談会、まちあるきイベントによるマッチングを開催 ・市民連携(NEX-T安曇野、空家アドバイザー協議会安曇野支部)による相談会 8回・空家「所有者、活用希望者」相談セミナー(東京開催日)1回・明科駅周辺まちあるき空家空き店舗見学会(3回計32名) 特定空家について、助言、指導を実施。また、特定空家認定に係る立ち入り調査を13件実施。所有者による特定空家の一時的な管理や解消に向け、一部調整が進んでいる案件もあるが、解体による根本的な解決は昨年度より減少した。		
<b>3. Check(点検・評価)</b>			
目標	達成状況	成果	課題
① [数量-2]	A	解体と移住者対象のリフォーム補助の申請件数は前年度より増加した。宅地としての再利用、有効活用が進み環境保全や移住者等による地域活性化が図られた。 利用可能な空家(資源)は、早い段階で市空き家バンク登録などで市場流通を促し、多様化する空家活用ニーズに対応することで、移住定住や創業などの機会損失を抑制する必要が。	解体と移住者対象のリフォーム補助の申請件数は前年度より増加した。宅地としての再利用、有効活用が進み環境保全や移住者等による地域活性化が図られた。 利用可能な空家(資源)は、早い段階で市空き家バンク登録などで市場流通を促し、多様化する空家活用ニーズに対応することで、移住定住や創業などの機会損失を抑制する必要が。
② [数量-1]	A	市民連携による年間を通じた空家相談会や空家バンクの活用者や活用希望者向け相談会を開催することで、自発的な課題解決へのきっかけづくりにつながった。相談会の義務化は空家問題と合わせることから、相談会や講座を広く告知した。 空家を活用する機運や所有者の関心を一層高める必要があるため、情報提供の手段や方法、伝え方への工夫が必要である。	市民連携による年間を通じた空家相談会や空家バンクの活用者や活用希望者向け相談会を開催することで、自発的な課題解決へのきっかけづくりにつながった。相談会の義務化は空家問題と合わせることから、相談会や講座を広く告知した。 空家を活用する機運や所有者の関心を一層高める必要があるため、情報提供の手段や方法、伝え方への工夫が必要である。
③ [数量-1]	C	特定空家等への立ち入り調査を実施することで、所有者へのプレッシャーとなり、一部所有者の自主的な解決に向けた親戚間の協議や適正管理につながった。 相続や金銭的な負担など様々な課題の解決に期間が長期化する事案が多いため、所有者との継続した交渉、支援が必要である。	特定空家等への立ち入り調査を実施することで、所有者へのプレッシャーとなり、一部所有者の自主的な解決に向けた親戚間の協議や適正管理につながった。 相続や金銭的な負担など様々な課題の解決に期間が長期化する事案が多いため、所有者との継続した交渉、支援が必要である。
推進組織等 意見	(主な推進組織の名称：空家等対策協議会) ・解体や移住リフォーム等補助金の活用は地域の環境保全や活性化に効果的である。 ・相談会など取り組んでいるが、なお一層、所有者や市民の空家課題への関心と利活用への機運を高めるため、多様な手段で継続的に普及啓発を行うことが必要である。 ・管理不全空家や特定空家等への対応は法に基づき、適正な指導を行うこと。		
<b>4. Action(改善)</b>			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
① [数量-2]		空家活用による持続可能な地域社会を目指し、補助金の活用を促進する。特に地域活性化を要件とした空家活用補助は、地域の賑わい創出やコミュニケーションの拠点となることから、活用件数を増やし運用後の取組、効果を情報発信していく。	・特定空家の対策をしっかりと取り組んでいる。特定空家について今後もしっかりと取り組んでいただきたい。
② [数量-1]		所有者の関心が高い情報を効果的に発信していく必要がある。相続登記義務化などタイムリーな情報に関する講演や相談会の場を通じて、空家所有のデメリットやリスク、活用することのメリットなどを所有者をはじめ、地域の方々にも共通認識として捉えもつため、多様な手段による所有者と活用希望者のマッチングに取り組む必要がある。	
③ [数量-1]		所有者対応困難・相続放棄案件に対する課題解決を図る必要がある。空家特措法に基づく助言・指導・勧告・命令等による措置並びに相続財産清算人や所有者不明建物、管理不全建物に特化した管理人制度を活用するなど、ケースに応じた柔軟に対応し、危険な特定空家等の解消を促進させる。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：政策経営課 企画担当

No. 29 あづみん(デマンド交通、定時定路線)の運行を行う。

1. Plan (計画)

目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定 時期
① [数量-2]	デマンド交通「あづみん」、コミュニティバス(定時定路線)の運行 デマンド交通利用者88,000人/年	・デマンド交通「あづみん」の運行 ・コミュニティバス(定時定路線)の運行	通年
② [数量-1]	利便性向上に向けた社会実装 ・協議会での会議年2回	実証運行からの利用者実需の把握と社会実装	通年
③			

2. Do (実行)

目標 [評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [数量-2]	98,047人	・デマンド交通「あづみん」の運行 ・コミュニティバス(定時定路線)の運行	通年
② [数量-1]	2回(5月、2月) 2回(5月、2月)	協議会にて来年4月に向けた、Suica等によるキャッシュレス決済の導入準備	通年
③			

※数量：実績値/A、実績値が中央値以上=C  
 数量：名乗回数/目標回数・100=100%→A、100-99%→B、30-99%→C、10-29%→D、0-9%→E  
 定率：100%→A、99%→B、50%→C、50%以下→D、50%以下→E

4. Action (改善)

目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など
① [数量-2]	無	休日運行の実施に伴い、利用者が増加した。平日運行分の利用者数も前年度に比べ微増した。今後はさらなる利用拡大に向け、予約システムの改修や運用上のルールの見直し等を行う。
② [数量-1]	無	キャッシュレス決済の利用周知、他分野との連携拡大を図る。
③		

3. Check (点検・評価)

目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題
① [数量-2]	A	平日運行に加え、休日運行を実施。利用者が4月-10月で約30名/日増となっている。 予約が取れない時間帯があるなど、全ての需要に応えられない状況がある。
② [数量-1]	A	R7年4月のサービスインに向け、Suica等のキャッシュレス決済導入準備を行った。 課題なし
③		

環境審議会  
意見  
・「あづみん」の運行における課題に対しては、随時対応されており、上手く運行できているということであった。引き続き取り組みを進めていただきたい。

推進組織等  
意見  
(主な推進組織の名称：地域公共交通協議会)  
特段なし

5 - 4 環境指標達成状況（基本計画P32-33）

環境基本計画で定めた環境指標の達成状況を下表に示します。

個別目標	環境指標	基準年 (2016年度)	策定年 (2017年度)	第1年次 (2018年度)	第2年次 (2019年度)	第3年次 (2020年度)	第4年次 (2021年度)	第5年次 (2022年度)	第6年次 (2023年度)	第7年次 (2024年度)	目標 (2027年度)
1 山岳地をまもる	山岳に関するイベントの参加者数 (登山マナーの普及啓発を含む)	3,800人/年	4,000人/年	3,000人/年	3,500人/年	0人/年	0人/年	0人/年			
	安曇野村の年間利用実績	150m/年	154m/年	113m/年	160m/年	-	249m/年	254m/年	283m/年	165m/年	300m/年
2 里山をまもる	さとふる。学校（里山学校）の年間参加者数（延べ）	105人/年	283人/年	352人/年	101人/年	33人/年	43人/年	66人/年	88人/年	77人/年	110人/年
	認定農業者数	267経営体	273経営体	281経営体	283経営体	273経営体	288経営体	293経営体	286経営体	291経営体	270経営体
3 里地をまもる	集落宮農組織数	27組織	27組織	27組織	27組織	27組織	27組織	27組織	25組織	24組織	27組織
	多面的機能支交代付金事業活動組織取組面積（注1）	-	-	-	-	-	-	-	3,720ha	3,717ha	3,850ha
4 川や水辺をまもる	「生きもの調査」の実施	1回/5年		1回/5年					1回/5年		1回/5年
	特定外来種駆除活動の参加者数	7,790人/年	7,228人/年	6,923人/年	7,194人/年	3,054人/年	4,607人/年	6,007人/年	5,987人/年	5,338人/年	8,000人/年
5 生きものをまもる	1人当たり都市公園・その他公園の面積（国営・県営公園を除く）	7.9m <sup>2</sup> /人	7.9m <sup>2</sup> /人	7.9m <sup>2</sup> /人	8.2m <sup>2</sup> /人	8.2m <sup>2</sup> /人	8.2m <sup>2</sup> /人	8.7m <sup>2</sup> /人	8.7m <sup>2</sup> /人	8.7m <sup>2</sup> /人	9.2m <sup>2</sup> /人
	緑の恵みを感じることができる講座の開催	2回/年	4回/年	4回/年	4回/年	3回/年	5回/年	5回/年	5回/年	5回/年	4回/年
6 身近な自然とふれあう	景観に関する広報及び講座の開催	0回/年	1回/年	1回/年	0回/年	2回/年	2回/年	2回/年	6回/年	12回/年	12回/年
	上水道普及率	99.0%	99.0%	99.1%	99.8%	99.2%	99.2%	99.2%	99.2%	99.2%	100.0%
7 景観や歴史・文化を大切に	水洗化率	81.9%	84.0%	84.6%	85.3%	86.3%	86.9%	87.7%	88.1%	88.6%	89.4%
	人為的な地下水涵養量（注2）	-	-	-	-	-	-	-	240.5万m <sup>3</sup>	288.5万m <sup>3</sup>	300.0万m <sup>3</sup> /年
8 豊潤できれいな水の環境をまもる	窒素濃化物・ダイオキシン類濃度測定値 ※R2年度でダイオキシン類調査業務廃止	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下
	自動車交通騒音測定値基準値超過地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	0地点
9 きれいな空気と静かな環境をまもる	苦情件数	265件/年	254件/年	179件/年	143件/年	97件/年	206件/年	231件/年	242件/年	322件/年	200件/年
	市民1日1人当たりのごみ排出量	787g/人・日	785g/人・日	796g/人・日	790g/人・日	801g/人・日	813g/人・日	821g/人・日	783g/人・日	762g/人・日	782g/人・日
10 公害・化学物質などの問題をなくす	資源物排出量	3,354t/年	2,995t/年	2,793t/年	2,648t/年	2,585t/年	2,646t/年	2,371t/年	2,143t/年	2,064t/年	3,142t/年
	事業系可燃ごみ排出量	10,859t/年	11,088t/年	11,162t/年	11,549t/年	11,427t/年	11,413t/年	11,743t/年	11,415t/年	11,105t/年	10,639t/年
11 ごみを少なく	安曇野地域の温室効果ガス排出量（注3）	71.3万t-CO <sub>2</sub> /年	71.5万t-CO <sub>2</sub> /年	70.8万t-CO <sub>2</sub> /年	65.9万t-CO <sub>2</sub> /年	60.2万t-CO <sub>2</sub> /年	65.4万t-CO <sub>2</sub> /年	67.1万t-CO <sub>2</sub> /年	2026年推計	2027年推計	38.5万t-CO <sub>2</sub> /年
	太陽光発電設備の導入件数（注3）							4,950件	5,242件	5,514件	6,000件
12 地球温暖化に対応	市施設における再生可能エネルギー設備設置施設数							28施設	40施設	60施設	
	「あつみん」（デマンド交通）の利用者数	85,365人/年	85,123人/年	86,273人/年	86,681人/年	75,970人/年	78,975人/年	80,554人/年	86,355人/年	98,047人/年	87,000人/年
13 環境情報を充実させる	安曇野エコプラン.netアクセス人数	-	1,030件/年	2,080件/年	3,772件/年	2,297件/年	3,406件/年	5,370件/年	4,911件/年	3,521件/年	3,500件/年
	安曇野市環境市民ネットワークによる環境学習プログラムの提供数	24件/年	24件/年	24件/年	24件/年	23件/年	21件/年	22件/年	23件/年	23件/年	30件/年
14 環境について学ぶ・体験する	安曇野環境フェア来場者数	1,900人/年	1,700人/年	1,800人/年	台風により中止	※2020年度は中止	※2021年度は中止	1,400人/年	1,800人/年	2,100人/年	2,000人/年
	信州型自然保育を受ける児童の割合	52.0%/年	53.9%/年	54.4%/年	57.9%/年	58.9%/年	58.5%/年	61.1%/年	62.6%/年	64.9%/年	74.0%/年
15 環境保全活動を活発にする	環境美化活動団体数（累計）	217団体/年	215団体/年	307団体/年	346団体/年	358団体/年	441団体/年	397団体/年	420団体/年	387団体/年	420団体/年
	環境美化活動参加者数（累計）	34,187人/年	31,894人/年	42,538人/年	42,422人/年	35,008人/年	42,745人/年	37,793人/年	38,827人/年	32,901人/年	43,000人/年

注1）第6年次（改定時）より2027年度の指標を変更  
 注2）妻あと湛水事業及び新規需要米等転作推進事業等による継続的な地下水涵養量を集計（第6年次（改定時）より2027年度の指標を変更）  
 注3）環境省自治体排出量カルテに掲載されている数値（FIT制度で認定された設備のみ）

## 5-5 参加と協働

基本計画に定めた施策のうち、個別目標13から15にかかる施策について、各担当が取り組みを進めました。ここでは、環境情報の充実や環境学習の推進、環境保全活動の活発のために環境課が行った取り組みのうち、参加と協働という視点で特徴的だった事業についてのみ記述します。

### (1) 安曇野環境フェア2024

#### 【開催概要】

ア テーマ	環境にやさしい安曇野ぐらし身近なライフスタイルを変えてみよう
イ 主催	安曇野市、安曇野環境フェア 2024 実行委員会
ウ 共催	安曇野環境市民ネットワーク
エ 日時	令和6年10月12日(土) 9時30分~16時 13日(日) 9時~16時
オ 会場	安曇野市堀金総合体育館(安曇野市堀金烏川2662)
カ 来場者数	1日目:約1,000人 2日目:約1,100人 計2,100人

## 6 その他

### 6-1 安曇野市環境基本計画庁内調整会議

環境基本計画庁内調整会議において、基本計画及び行動計画の進捗状況の確認と課題の検討を行うとともに、各種施策の調整を行いました。また、実施計画書及び年次報告書の原案や、これまでの取り組みの点検・評価の結果、関連計画の改定を踏まえて行動計画の改定案を作成し、審議会への報告を行いました。

### 6-2 安曇野市生物多様性アドバイザー

安曇野市の豊かな自然環境や動植物種の多様性を将来にわたり維持していくことを目的に、安曇野市版レッドデータブック等で著された希少生物の保護及び重要な自然環境の保全等に関し、専門家の意見を聴くため、連絡会議を6回開催したほか、必要に応じて意見照会を行いました。

### 6-3 [安曇野環境市民ネットワーク](#)

#### 6-3-1 概要と事業内容

安曇野環境市民ネットワーク（以下「ネットワーク」という）は、市内または各地域において環境保全のための活動を行っている団体や個人が集まり、協働や連絡・調整を行うことによって、より良い安曇野の環境を創出することを目的として平成21年9月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて①コミュニケーション、②環境学習の企画と実施、③環境基本計画および行動計画の実施、④普及啓発の4つです。

令和5年度の組織体制及び事業内容は次のとおりです。

#### (1) 組織体制

- ア 会員構成 : 23団体
- イ 役員構成 : 運営委員 14人（座長 1人、副座長 1人、会計 1人、監事 1人含む）
- ウ 事務局 : 安曇野市 市民生活部 環境課

#### (2) 事業内容

- ア 主催事業
  - ア-①運営委員会、総会、環境講座「環カフェ」の開催

実施日	会議等名称	内 容
5月25日	第1回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緑のカーテン講座」</li> <li>①地球温暖化、省エネ対策等について</li> <li>②緑のカーテンの作り方（ゴーヤ編）</li> <li>・講師等：①環境課職員（環境政策担当）</li> <li>②NPO 法人あづみ野風土舎の皆様</li> <li>・参加者：43人</li> </ul>
7月26日	第2回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物「アライグマ」の学習</li> <li>・講師等：福江 祐子 氏 (NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ)</li> <li>・参加者：19人</li> </ul>
3月	総会	<p><b>【書面開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度事業報告及び収支決算</li> <li>・令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）</li> </ul>

※1月運営委員会 中止

#### ア-②登録団体間の情報交換及び情報発信事業

登録団体の開催するイベントや環境関連の様々な情報について、メーリングリストやWeb ページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信などを行いました。

また、主催・共催事業の開催にあたっては広報誌で周知したほか、必要に応じてチラシを作成し、公共施設及び市内小・中学校等に配布しました。

#### イ 共催事業

##### イ-①安曇野環境フェア 2024

堀金総合体育館で開催しました。ネットワーク登録団体をはじめ、市内外で環境活動を行っている団体等との情報交換が図られました。また、市内の環境に関するさまざまな情報・現状を来場者の方々に知ってもらうことができました。  
(5-5 (1) 参照)

#### ウ 後援事業

##### ウ-①ネットワーク登録団体等の関連イベントの後援及び情報発信

ネットワーク登録団体の関連イベントについて後援を行ったほか、メーリングリスト、市サブサイトのWeb ページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信を行いました。

#### エ 協力事業

##### エ-①学校や市民団体等からの講師依頼対応（環境学習資源の有効活用に係わるコーディネート）

アルプスあづみの公園管理センター主催・共催するの「さとやま楽校」の一部講座について、ネットワーク加入団体が講師を務め、地域の学生や住民への環境学習推進に御尽力いただきました。

令和6年度 さとやま楽校

実施日	内容	主催・共催/講師等
4月21日 5月12日 6月8日、23日 7月7日、21日 8月10日、25日 9月8日、16日 10月5日、13日 20日	やまこの教室 「オリエンテーション飼育 林準備」等 計13回 参加者：延べ219人	主催：やまこの学校 共催：国営アルプスあづみの公園 講師：やまこの学校会員
5月19日 6月22日、29日 7月27日 9月7日、22日 10月14日	田んぼの教室 「田植え」等 計7回 参加者：延べ143人	主催：国営アルプスあづみの公園 共催：講師：みのむしの会、生活協同組合 コープながの、岩原の自然と文化を守 り育てる会 講師：各会会員
4月20日 5月18日、26日 6月22日 8月6日 10月19日	オオルリシジミの教室 「オオルリシジミの模型を 作ろう」等 計5回 参加者：延べ48人	主催：国営アルプスあづみの公園 共催：安曇野オオルリシジミ保護対策会議 講師：那須野雅好氏、斉藤雄太氏
5月25日 6月29日 9月28日 12月21日	里山再生の教室 「ガイドダンス」等 計4回	主催：あづみの樹楽会 共催：国営アルプスあづみの公園 講師：豊科郷土博物館松田貴子氏ほか 会員

エ-②安曇野市環境審議会、環境基本計画庁内調整会議との連携・協力  
安曇野市環境基本計画・環境行動計画との連携、協力として関連事業へ参加しました。

オ 参加団体による活動

ネットワーク登録団体間や環境審議会との情報共有を目的として活動状況アンケートを実施したところ、全23団体のうち15団体より回答がありました。

なお、アンケート結果の詳細を参考資料として次ページ以降に示します。

## 7 参考資料

令和6年度 安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果

○報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
生活	安曇野市消費者の会
生活、環境	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会
地球温暖化	安曇野地球温暖化協議会
景観、農林	NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団
環境	アルプスあづみの公園管理センター
景観	アルプス花街道実行委員会
自然	烏川溪谷緑地 環境管理事務所
景観	三角島ふるさとの森プロジェクト
自然、環境	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会
自然、生活	生活協同組合コープながの
自然	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」
自然、景観	特定非営利活動法人 森倶楽部 21
景観	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
自然	野生生物資料情報室
自然	やまこの学校

(50 音順)

■令和6年度 安曇野環境市民ネットワーク登録団体 年間活動状況

アンケート回答がありました団体の年間活動記録について以下に掲載します。

【安曇野市消費者の会】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7/11	リメイク、バッグインバッグ作り(古布利用)	豊科本村公民館	10名

特に来場者からの反響が大きかった理由

- ・おしゃれで、実用性のあるモノづくりであること、再利用の楽しさ。

【安曇野市不用食器リサイクル実行委員会】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10/6	不用食器の回収実施	県民豊科運動広場	381名

特に来場者からの反響が大きかった理由

- ・今まで不要となった食器を処分せず保管していた、又ゴミとして出していたがこの活動を知り(不要となった食器がそのまま無料でそれを必要とする人に渡っていく。最終的に残された食器は岐阜県まで運び美濃焼きの食器に再生される。)この循環型のリサイクル活動はとても良い活動だと思います。地域と回数を増やしてほしい。

【安曇野地球温暖化協議会】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
8/8	推進研修会	松本 M ウイング	—
10/12, 13	環境フェア	堀金体育館	—

【NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
随時	ふるさと探究安曇野	小中学校	多数

特に来場者からの反響が大きかった理由

- ・小中学生を対象として、生徒主体のフィールドワーク

【アルプスあづみの公園管理センター】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/20～10/19 (全5回)	オオルリシジミの教室	アルプスあづみの公園掘金・穂高地区	登録参加者 15人
5/5	オオルリシジミのサナギを放そう	同上	37人
5/19～10/14 (全6回)	田んぼの教室	同上	登録参加者 50人
7/10	夜の里山観察&やまこ羽化観察	同上	36人
9/8	魅惑のゲンゴロウ探し	同上	20人

特に来場者からの反響が大きかった理由

- ・参加体験型のボランティア活動で、家族ぐるみで参加できること

【アルプス花街道実行委員会】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5/18	マリーゴールド苗の配付・定植	市内9か所他	1,162人
8/19	活動箇所の巡視	市内9か所他	10人
12/7	旧安曇野IC北區画の資材撤去作業	旧安曇野IC北區画	16人

【鳥川溪谷緑地 環境管理事務所】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/21	カタクリ観察会	森林エリア	14名
4/27	第162回からすの学校 オオルリ観察会	水辺エリア 学習棟	25名
5/11	《20周年記念イベント 《第163回からすの学校(1日目)》 花、鳥、虫の共進化	豊科交流学習センター	80名
5/12	20周年記念イベント 《第163回からすの学校(2日目)》 野鳥観察会	水辺エリア	20名
7/14	《第164回からすの学校》 アブラムシ観察会	水辺エリア レクチャールーム	8名
7/21	昆虫観察会 昆虫たちの棲みよい森づくり	水辺エリア レクチャールーム	12名

7/31	《第 165 回からすの学校》 水生生物観察会とザザ虫を食べてみよう	水辺エリア レクチャールーム	17 名
8/18	《第 166 回からすの学校》 地衣類学習会	水辺エリア	21 名
10/5	烏川の堰を訪ねて・秋 烏川溪谷緑地⇔あづみの公園	水辺エリア あづみの公園	5 名
10/6	《第 167 回からすの学校》 ボタニカルフォトアート入門講座	水辺エリア レクチャールーム	8 名
10/12、13	安曇野環境フェア	堀金総合体育館	
10/13	《第 168 回からすの学校》 ホネホネ講座と頭骨展示	水辺エリア	講座 22 名 見学 280 名
11/23	はじめてのコケテラリウムづくり	水辺エリア レクチャールーム	13 名
12/15	《第 169 回からすの学校》 ミドリシジミ類の卵を探してみよう	水辺エリア レクチャールーム	18 名
1/26	新月伐採 伐倒体験 斧入れの儀	森林エリア	17 名
1/26	第 171 回からすの学校》 アニマル・トラッキング学習会	水辺エリア	22 名

特に来場者からの反響が大きかった理由

・烏川では初めての企画展であり利用者が減少してくる時期にとりしては多くの来場者があり、皆様からは普段見る機会が少ないキリンやクマ等の頭骨を間近で見ることができたためご好評をいただいた。

#### 【三角島ふるさとの森プロジェクト】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7/6	三角島夏の自然観察会	三角島	19 人
不定期実施	三角島清掃活動	三角島	延 30 人
10/12、13	環境フェア	堀金公民館	—

特に来場者からの反響が大きかった理由

・三角島の植生等について、市豊科郷土博物館の学芸員から説明が聞けるイベントのため

【NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/7	はくせい動物 特別講演会 「大型哺乳類カモシカとツキノワグマ どんな暮らし? どうつきあう?」	豊科郷土博物館	50 人
4/29	はくせい動物園 トーク③ 「ツキノワグマを知ろう!」	豊科郷土博物館	20 人

特に来場者からの反響が大きかった理由

・参加者の方から、クマについてよくわかった、クマへの印象が変わったなどのコメントをいただきました。

【生活協同組合コープながの】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7/31	川のがっこう企画	自然体験交流センターせせらぎ	40 人
9/21	森のがっこう企画(森倶楽部 21 と共同)	長峰山	32 人
10/12, 13	安曇野環境フェア ブース出展	堀金総合体育館	15 人

【田淵行男記念館こども自然観察教室】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/20	開講式・オリエンテーション 田淵館見学・記念館周辺での自然観察会	ビレッジ安曇野、田淵記念館	45 名
5/18	安曇野市の天然記念物 オオルリシジミの観察	国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)	36 名
6/8	初夏の昆虫観察	県営烏川溪谷緑地(水辺エリア)	35 名
7/13	夏の昆虫観察	長峰山	31 名
9/14	初秋の昆虫観察	黒沢洞合自然公園	41 名
10/12	秋の昆虫観察	松本市アルプス公園	30 名
11/9	むしの会 30 周年バス視察	東京都日野市 多摩動物公園	26 名

12/7	冬の水鳥観察会 ※雪のため室内座学開催	田淵行男記念館	20名
2/9	自然講演会・修了式 (講師：あつぎ郷土博 槐真史氏)	三郷農村環境改善センター (三郷昆虫クラブと共催)	29名 (むしの会参加者)

特に来場者からの反響が大きかった理由

・昆虫の少ない晩秋に開催した多摩動物公園視察では、巨大な温室ドームの中で乱舞する、初めて目にする南西諸島のチョウたちに皆が感動した。(むしの会 30周年バス視察)

【特定非営利活動法人 森倶楽部 21】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5/13	明科高校「長峰山ハイキング」事前授業	明科高校	約90人
5/24	明科高校「長峰山ハイキング」	長峰山周辺	約90人
6/15	JUON「安曇野森林の楽校」サポート	長峰山絆の森	15人
9/10	指標植物調査、耕起実験区の植生調査	長峰山絆の森	8人
9/21	コープながの たき火でカレーライス	大町市文化会館	31人
9/28	竹かご作りワークショップ	大町市文化会館	5人
10/12、13	安曇野環境フェア(体験ブース・展示)	堀金体育館	約40人
11/26	笹賀公民館「秋の自然観察ウォーク」	光城山・長峰山	26人

特に来場者からの反響が大きかった理由

・1年生が学校から長峰山頂上まで歩き、里山の自然、歴史等体感してもらえた。(明科高校「長峰山ハイキング」)

【屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10/12、13	環境フェア	堀金公民館	—
11/23	屋敷林見学会&落ち葉拾い	曾根原家住宅	18人
2/23	安曇野屋敷林フォーラム 2025	みらい	56人

特に来場者からの反響が大きかった理由 : 安曇野の文化財を継承していく取組のため

【野生生物資料情報室】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/24	野鳥観察会（穂高公民館主催）	鐘の鳴る丘	18人
4/27	オオルリ観察会（からすの学校）	烏川溪谷緑地	20人
6/22	ライチョウ観察会（座学と観察会）	燕岳	16人
1/26	アニマルトラッキング（からすの学校）	烏川溪谷緑地	20人

特に来場者からの反響が大きかった理由

- ・オオルリを間近で見ることができる（オオルリ観察会）

【やまこの学校】

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4/21	オリエンテーション 飼育林準備	国営アルプスあづみの公園 堀金口 やまこ飼育林	29名
5/12	やまこ卵の糊付け 山付け	国営アルプスあづみの公園 堀金口 休憩所、飼育林	28名
6/8	幼虫観察	国営アルプスあづみの公園 堀金口 やまこ飼育林	16名
6/23	切换えし	国営アルプスあづみの公園 堀金口 やまこ飼育林	16名
6/30、7/15	収繭	国営アルプスあづみの公園 堀金口 やまこ飼育林	34名
8/10	成虫観察 公開講座	国営アルプスあづみの公園 堀金口 広場	48名
8/25	糸作りワークショップ 公開講座	国営アルプスあづみの公園 クラフトゲート匠の杜	47名
9/8、9/16	コサージュ製作体験	国営アルプスあづみの公園 堀金口 休憩場	27名
10/5	織り糸作り体験	国営アルプスあづみの公園 堀金口 休憩場	22名
10/13、10/20	織り体験	国営アルプスあづみの公園 クラフトゲート匠の杜	28名

特に来場者からの反響が大きかった理由

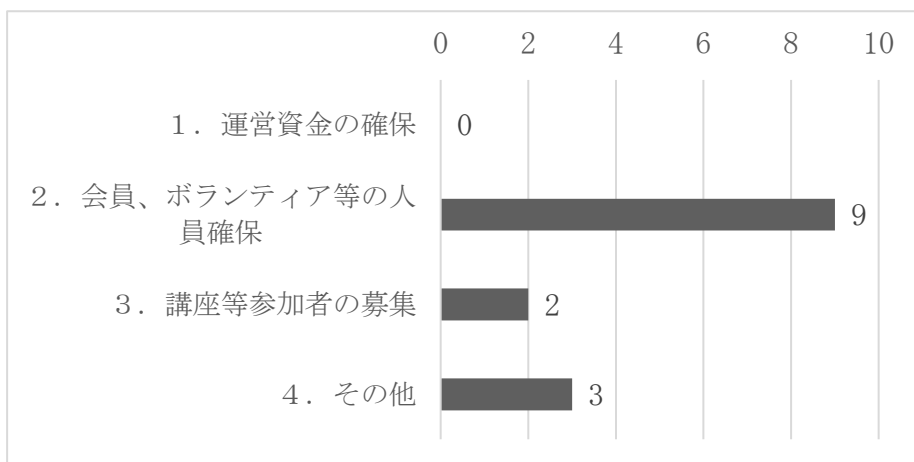
- ・何れも公開講座で受講生以外に多くの方が参加可能である

■課題

【問】貴団体の運営、イベント・講座等の実施にあたり、課題と感じていることは何ですか。

1～4のうち一つ選んで、回答欄に記入してください。

- 1. 運営資金の確保
- 2. 会員、ボランティア等の人員確保
- 3. 講座等参加者の募集
- 4. その他（ ）

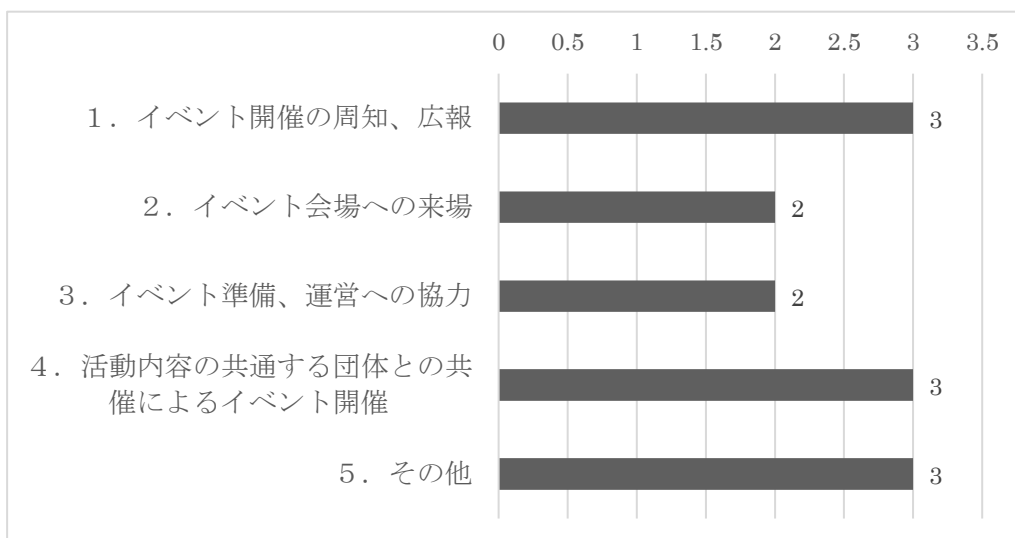


その他記述

- ・団体数の減少や各団体による区画の維持管理体制の低下等により、空き区画が発生し、良好な景観形成の維持が課題となっている。(アルプス花街道実行委員会)
- ・観察指導を行う後継者の育成(田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」)
- ・特になし(野生生物資料情報室)

【問】貴団体がイベント・講座を実施する際、他のネットワーク登録団体や環境審議会などにどのようなことを期待しますか。1～5のうち一つ選んで回答欄に記入してください。

- 1. イベント開催の周知、広報
- 2. イベント会場への来場
- 3. イベント準備、運営への協力
- 4. 活動内容の共通する団体との共催によるイベント開催
- 5. その他（ ）



#### その他記述（原文）

- ・生物多様性に取り組む認証・制度指定など、安曇野地域内の取組みの「ブランド化」を目指し、各活動や施設に対する個人・民間の支援を受けやすい状況を作り、場合によっては、大都市圏などの自治体との協定作り（アルプスあづみの公園管理センター）
- ・他団体の開催イベントなどの情報をいただければ、会員掲示板にて告知させていただきます。（田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」）
- ・特になし（野生生物資料情報室）

【問】その他、今後安曇野環境市民ネットワークとして取り組んでみたい活動、環カフェの内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。（例：記念講演会、イベント参加）

- ・消費者の会は「豊かな環境づくり松本地域会議」に団体登録参加して来ました。この松本合庁廃棄物課が事務局を担う、環境づくり会議の行う行事に参加して来ました。市環境課はこの会議の参加団体ですが、その行事の情報を市民環境ネットワーク参加者、団体に流して、交流、学習の機会にしてほしいなと感じています。（安曇野市消費者の会）
- ・小中学校で実施している活動事例の紹介（NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団）
- ・取り組む機運作りとして「生物多様性地域戦略策定（ひな形）」を基にして、安曇野市版を作成する市民ワークショップを開催を。（アルプスあづみの公園管理センター）
- ▼時間が合わずなかなか参加できませんが、環カフェなどに参加し、他団体さんとのつながりを強められれば…とは思っています。（NPO法人信州ツキノワグマ研修会）
- ▼特になし（野生生物資料情報室）
- ▼収穫した繭又は糸での作品作り（やまこの学校）